

おうみネット

Ohmi Net | ●発行日 / 2017年10月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

20周年記念特集 ● これからの市民活動を考える ①

多様な主体との共働

～ 対話を通じて「共感」から「共働」へ ～

九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授
NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー

加留部 貴行さん

おうみの市民と企業が
ともに Grow 5



大人が夢を持ち、皆が夢を語れるまちにしたい



Grow

02

まちづくり

特定非営利活動法人
くさつ未来プロジェクト

日本語を学びたい! という人たちの期待に応えたい

Grow

01

多文化共生

彦根にほんご教師会

共同生活を通して依存症の回復、社会復帰を支援

Grow

03

社会復帰支援

特定非営利活動法人
リバティー・ウィメンズハウス・
おりぶ



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

これからの市民活動を考える

設立二十周年を迎えた淡海ネットワークセンターでは、市民活動のこれまでを振り返り、出てきた課題を探り、これからの市民活動の参考になる情報を二十周年記念特集としてお届けします。今号は第二弾として、「多様な主体との協働」を特集します。

近年、少子高齢化などの社会環境の変化や住民の価値観の多様化により、行政サービスへのニーズが急速に多様化してきました。その一方で、社会的な課題の解決に関心を持ち、NPOや地縁団体などに積極的に参加する住民や、社会的責任を重視する企業が多く見られるようになってきました。そこで、住民へよりよい公共サービスを提供するため、行政だけでは担いきれないサービスをNPO、地縁団体、企業等と協働する必要性が出てきました。

「協働」とは、(NPO、地縁団体、企業、行政など)立場の異なる組織や人同士が、対等な関係のもと、同じ目的や目標のために連携・協力して働き、相乗効果を上げようとする取組のことです。

そこで「協働」を実現するための具体的なプロセスについて、九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授の加留部貴行さんにご寄稿いただきました。また、県内事例として、今まさに進行形で行政と一緒に頑張っておられる、協働事業の事例をご紹介します。

Vol.2

多様な主体との共働

「対話を通じて「共感」から「共働」へ」

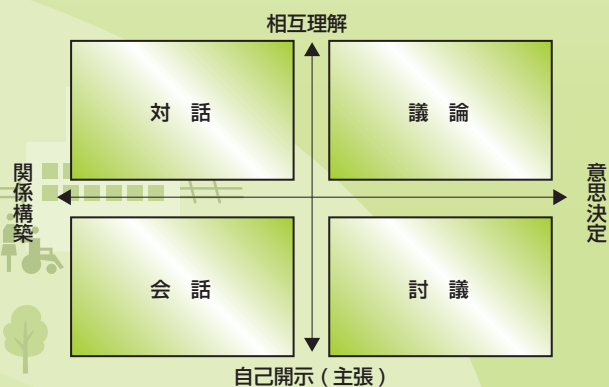
九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授
NPO法人日本ファシリテーション協会フェロー

加留部 貴行さん

今、全国各地で、老若男女、産学官民、地域と地域などを「つなぐ」場づくりの必要性が高まっています。「とにかく話をする場を創りたい」という強いニーズをいただく中で、現場は「こんなにもつながっていないのか」と痛感しています。

まさに過疎過密に関係ない「人のつながり」の限界集落化。地域でも職場でも人よりもパソコン、スマホの画面に向き合う時間が増えてきました。雑談が絶滅危惧種になり、日常的に直接話す機会が減り、他人事が増殖しています。個人対応型の通信機器や生活用品、ライフスタイルの普

及と連動して、この二十年間で個別化・孤立化が進み、人と人が直接共有する空間や時間はかなり削られてきました。そこに人口減少と少子高



【図1】話し合いのステージ (出典：伊藤史紀氏による)

※注：本稿では「協働」の表記を筆者在住の福岡市がマスタープランで採用している「共働」で表記しています。

加留部貴行 (かるべたかゆき)

●プロフィール●



▶九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授
NPO 法人日本ファシリテーション協会
フェロー

1967年福岡県出身。九州大学法学部卒業後、西部ガス(株)入社。2001年に福岡市へNPO・ボランティア支援推進専門員として2年半派遣。07年から九州大学へ出向し、ファシリテーション導入を通じた教育プログラム開発などを担当。企業、大学、行政、NPOの4つのセクターを経験した「ひとり産学官民連携」を活かした共働ファシリテーションを実践。11年4月に独立。現在は、加留部貴行事務所 AN-BAI 代表。他に福岡県行政改革審議会委員、福岡市研修企画アドバイザーなど。著書に『チーム・ビルディング』、『教育研修ファシリテーター』(いずれも共著・日本経済新聞出版社)など。

齢化の波が地域・職場を問わず押し寄せ、多様性が強く表出する中で、模範解答のない解決方法も答えも自らが探さねばならない時代に入ってきました。

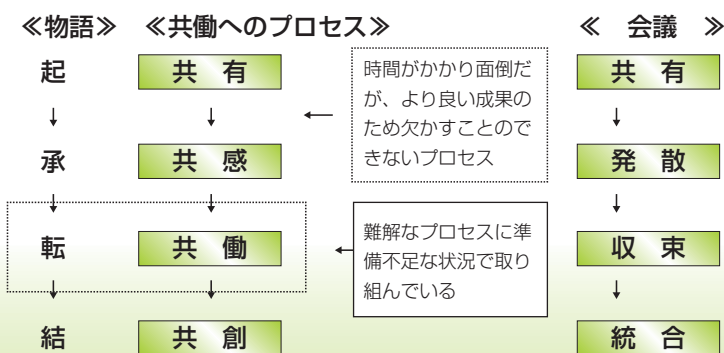
つまり、個人や単独の組織、地域、セクターでは限界で、新たなヒントを求めて多様な立場・世代・職種などが否応なしに「つながる」方向に向かわざるを得なくなってきたのです。そこで、この「つながり」を再構築するために注目されるのが「対話」で

す。関係構築をいっつ、お互いの背景や価値を受け止めて相互理解を図るものです。

共働はいきなり始まるものではありません。物事には筋道や順番があり、物語には起承転結があるように共働にも順序があります。

まずは、お互いの「共有」です。自己紹介などで知り合うことから情報や言葉の意味、ルールなどを共有します。そして話の中で見つかる共通点から「共感」が生まれ、共感こそが

人と人を結びつけ、次なる行動(共働)を生み出す原動力となるのです。この「共有→共感」のプロセスが対話です。多様な主体との共働を進めるためには、少し時間をかけてでも、まずは多様な主体同士の関係構築と相互理解を進めることが肝要です。そして、対話は因数分解すると「聴く」と「話す」の二つの掛け算です。どちらか一方がゼロならば対話もゼロになります。共働の主体同士が「聴く」



【図2】共働へのストーリーと会議

「話す」をバランスよく行うことでお互いの持ち味を出し合うことが大切です。今、時代は「ませる」を求めています。多様な対話からお互いの強みとその居場所が鮮明になり、それらを活かし合ってイノベーション(革新)が生まれる。共働はこれからの時代を切り拓く知恵や想いや行動を生み出す場であってほしいと心から願っています。

滋賀県における協働事業の事例

加賀部さんは「共働（協働）」の実現プロセスにおいて、「対話」に注目されています。

十分な「対話」から生まれる「共感」という感情は、課題解決に向けてそのパワーを倍増し発揮してくれるのではないのでしょうか。ここでは、その取組と事例をご紹介します。

滋賀県でも「〜共につくる！ 私たちのしがらみ」をテーマに、日本の真ん中にあるこの滋賀から、自分だけ、今だけ、ものだけにとどまらない、次の時代を見据えた「新しい豊かさ」を、県民の皆さんと共につくっていきたい!! その思いのもと、「協働」を実現する仕組み「協働プラットフォーム」の設置と、その事業化に向けた「協働提案制度」が創設されています。

● 「協働プラットフォーム」は…

県民をはじめとする多様な主体の参加のもとで、テーマに応じた対話や協議を行い、地域課題を共有し「協働」を実践する場です。地域や日常の困りごとのテーマを広く県民の皆さんからも募集し、その課題に関心のある方ならだれでも参加し、自由に対話や協議を行えます。

● 「協働提案制度」は…

協働プラットフォーム等での県民の皆さんと対話・協議した結果を踏まえ、予算を付けて事業化を進める取組です。

～平成二十九年度実施 滋賀県協働提案制度による事業～

協働提案制度事業

課題を解決するために、本年度（平成二十九年度）は五つの事業が進められています。

① 高齢ドライバーの運転支援事業

高齢ドライバーを対象とした運転能力や身体機能の低下程度を見極める講習会の開催

県と協働する団体

- ◇ 彦根自動車教習所株式会社
- ◇ 株式会社八日市自動車教習所
- ◇ 株式会社近江八幡自動車教習所
- ◇ 株式会社アヤ八自動車教習所
- ◇ 一般財団法人滋賀県老人クラブ連合会
- ◇ 公益財団法人認知症の人と家族の会滋賀県支部
- ◇ 公益財団法人滋賀県交通安全協会

② 犯罪被害者等支援コーデイネーター事業

犯罪被害者等が適切な支援を適切に受けられるための支援専門職コーデイネーターの設置および県内各地での出張相談の実施、パネル展示などの広報啓発活動の実施

県と協働する団体

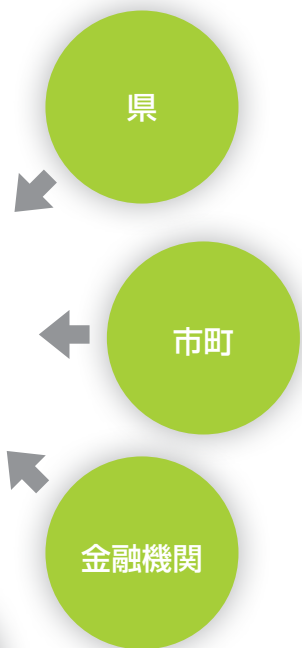
- ◇ NPO法人おうみ犯罪被害者支援センター
- ◇ 長浜法律事務所

③ 子どもを虐待から守る「次世代育成プロジェクト」

関係機関の協働により、児童虐待に関する視聴覚教材等を作成するとともに、これら教材の活用による高校生に向けた児童虐待の理解等に関する学習活動の実施

県と協働する団体

- ◇ NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク・しが
- ◇ 株式会社滋賀銀行
- ◇ びわ湖放送株式会社



事例紹介

山門水源の森
獣害防止対策に向けた協働

湖国三大祭の一つとして名高い大津祭。その大津祭の保存団体が、滋賀県協働提案事業「山門水源の森獣害防止対策事業」に提案者として名前を連ね、森の希少植物を保全する事業に協働で取り組むことになりました。このことが発表された当初、県最北端の山門水源の森と最南端の大津祭との間にどのようなつながりがあるのだろうか、共通の目的は何だろうかと怪訝に思われた方も多かったのではないのでしょうか。

大津祭の主役である曳山の車軸や車輪などの主要な構造部品はアカガシ（ブナ科の広葉樹）で作られています。13基ある大津祭の曳山はいずれも江戸時代の建造で、定期的な修理が必要なものばかりです。修理に適す



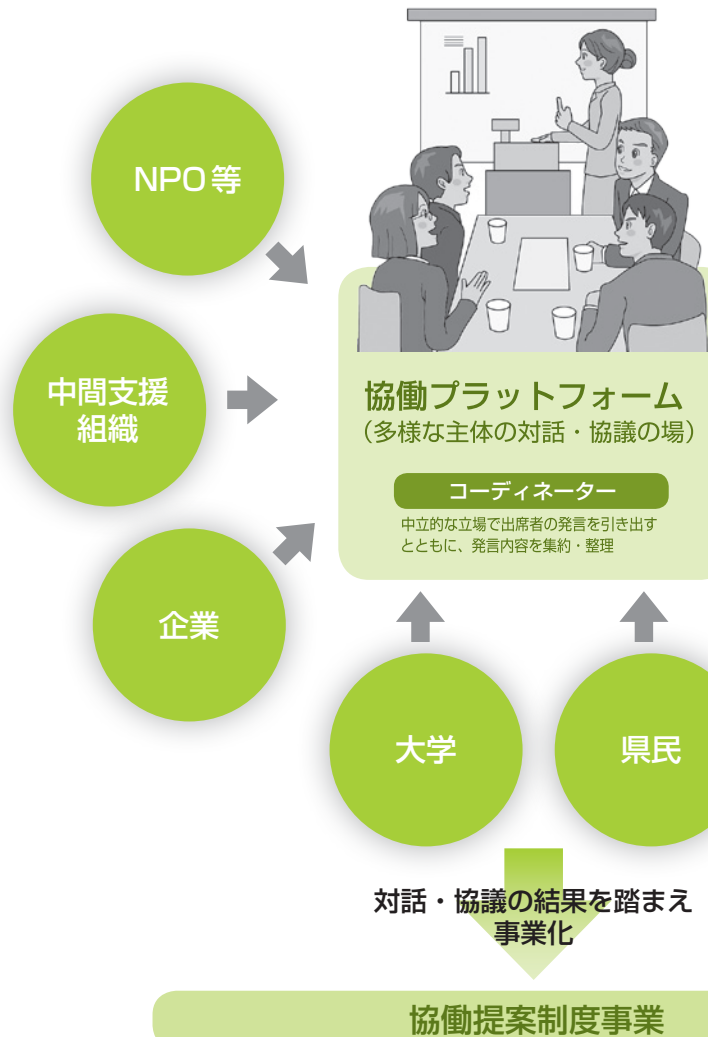
る直径1mほどのアカガシの大木は今や入手困難となっており、今後の修理に支障をきたすことが予想されています。アカガシの確保は、曳山の維持、ひいては祭そのものの継承

の大きな課題となっています。

そのような中、「大津祭国指定記念実行委員会」、「NPO法人大津祭曳山連盟」等大津祭の保存団体が、市民団体「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」等と連携をして、山門水源の森に群生するアカガシの保全育成に乗り出すことになりました。将来にわたって必要となる材料の確保と伝統行事の継承につなげるための長期的、継続的な取り組みにしたいとの考えです。

協働とは、二つ以上の主体が何らかの目標を共有し、協力して事業を行うことで相乗効果が期待できるものですが、協働の効果を増幅させる上で、可能な限り多様な主体が参加すること、かつできれば異種・異質な団体によって構成されることが望ましいとされています。

滋賀県協働提案制度で採択された5つの協働提案事業はいずれも従来にない多様な主体が連携する事業となっています。新しい仕組み「協働プラットフォーム」の活用が促進され、さらなる協働への参加が期待されます。



- 県と協働する団体
- ◇ 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会
 - ◇ 大津祭国指定記念実行委員会
 - ◇ NPO法人大津祭曳山連盟

⑤ 山門水源の森獣害防止対策事業

希少植物のシカおよびイノシシによる獣害防止のための防獣ネット等の設置および資材運搬道の設置

県と協働する団体

- ◇ 株式会社 パソナ農援隊
- ◇ しが農業女子100人プロジェクト
- ◇ 湖国女性農業・推進委員協議会
- ◇ 滋賀県生活研究グループ協議会

④ 女性の力を活かしたアグリビジネス創出事業

農や食に興味のある女性を対象とした交流・相談会等の実施および女性農業者の経営ステップアップ支援事業の実施

ともに Grow

県内で活躍するNPOや
社会貢献企業を
レポート！

Grow 01 市民 ● 多文化共生

2017ナカザワNEOフレンドシップ基金助成団体

彦根にほんご教師会

代表●富川 和代(とみかわ かずよ)
設立●1990年7月
会員●13名(教師数)
連絡先●彦根市大数町163-76
TEL&FAX: 0749-23-7833



▲JUMPの様子

日本語教師の指導力を高め 外国につながる子どもたちの学習を支援

彦根にほんご教師会W A J Tは、彦根に拠点を置く、日本語教育の普及と発展を目的とする集まりです。教員免許や日本語教師の資格を持ち、指導の経験があるボランティア教師で構成され、主に外国につながるのある子ども「日本語学習」や「科学習」、「生活学習」の支援、「日本語ボランティア養成講座」等の活動を行っています。

同会は、一九九〇年に「彦根日本語講師会」として発足しました。企業の外国出身者のための「日本語教室」運営要請を受け、日本語教育に関心のある仲間が集まって会を結成しました。

一九九〇年代後半より、滋賀県下の各日本語教室で開く「日本語ボランティア養成講座」への講師の派遣依頼が多くなりました。そうした要請に対応するため二〇〇三年に会名を「にほんご滋賀」と改称し、日本語ボランティアの指導力と日本語力向上のための取り組みを開始しました。

二〇一四年に現在の「彦根にほんご教師会」に改

在、二十三か所の地域日本語教室があり、様々な事情で日本語習得を必要とするおおよそ五百人の人たちが学んでいます。学習者はますます増加傾向にあり、日本語指導者養成等、彦根にほんご教師会への期待がこれまで以上に高まっています。

(淡海ネットワークセンター 歌代 泰和)



▲第3回子どもにほんごスピーチ大会 in彦根

称し、活動の中心を「彦根市とその周辺」とし、新たに「外国につながるのある幼児・児童・生徒の日本語学習支援・教科学習支援」を活動に加え、現在に至っています。

滋賀県内には現

子育て支援からまちづくりへ 大人も子どもも夢を持てるまちにしたい



▲4月に開催された「愛彩葉」扮装イベントの様子

二〇一七年四月、草津川跡地公園において草津市特産の「愛彩葉(あいさいな)」の姿に大勢が扮装して、「ギネス世界記録に認定されたニュースを目にした方もいるのではないのでしょうか。このイベントに大きく関わったのが「くさつ未来プロジェクト」です。二〇〇七年に育児サークルとして母親達が

立ち上げて活動をスタート。以後、孤立しがちな育児中の母親達の居場所づくりとなるような子育て支援の活動にベースに置きながら、映画の自主上映会や講演会、防災の講習会、冒頭のまちづくりに関する活動など、活動の幅を多岐に広げています。

転機となったのは、二〇一五

苦しみから解放され、 新しい明るい未来へと羽ばたいていく場



▲リパティール・ウィメンズハウス・おりーぶ

始められたきっかけは？との問いに「出来心」と少し照れ笑いをしながらも「でも直ぐに一人でやってはいけないと気づきました」と山本さん。依存症の方の相談室から始まり十年。ご友人の助けもあり、現在の女性の依存症回復施設「リパティール・ウィメンズハウス・おりーぶ」は、より良い回復の場として、

変化を続けてこられました。おりーぶでの回復プログラムはユニークで様々。そのうちの一つに、催し会場や老人施設でのオイルハンドマッサージがあり、それはスタッフからの発信ではなく彼女達の中から生まれしてきたもの。今では先輩から後輩へと受け継がれ恒例となっています。

おうみ未来塾リレーエッセイ

多種多様な人材がいた実践場



おうみ未来塾12期生
鹿深deござれ！
藪下利男(やぶした としお)

もう5年の歳月が…。サラリーマン生活を終えて「地元で何か地域活動を」と思ってアンテナを広げていた時に、おうみ未来塾を知り、魅力的な目的の文言に魅かれて入塾しました。まずは29名の多彩な顔触れにびっくりしながら学びの場へ。地域活動に必要な道具(手段)を学んだり、サラリーマン時代とは異なる多種多様な人材の中に溶け込み交流を楽しんだりして、申し分のない18か月間でした。

後半の創造実践のフィールドを甲賀市水口に決めて地域活動を実践しました。グループの活動目的を、地元日本人と外国人住民の方々が共に地域をふるさととして楽しく暮らせるためのネットワークづくりとして、人および団体の交流を図りました。この間で繋がった地元の人たちとも今も交流は続いています。

そして卒塾後も、甲賀市市民協働事業として3年間活動を継続しました。この間メンバーそれぞれの資源を如何なく発揮するとともに新たなメンバーも加わり活動の幅を広げました。そして3年過ぎた今年からは、活動目的を少し変えながら卒塾生メンバーと新たなメンバーで、身の丈に合った活動を続けようとしています。おうみ未来塾で出会った素晴らしい仲間乾杯です！

特定非営利活動法人 くさつ未来プロジェクト

代表●堀江 尚子(ほりえ なおこ)
設立●2007年(2016年法人化) 会員●正会員：31人
賛助会員：(個人)29人(企業)15社(団体)3団体
連絡先●草津市野路1丁目16-13-405
TEL：090-5087-9904 FAX：077-563-2890
URL：http://www.kmp-kusatsu.org/
E-mail：kmp.kusatsu@gmail.com

▼くさつ未来プロジェクトのみなさん



「うまれる」を自主上映したことでした。上映のための協賛金を地域の企業等へ飛び込みで募ったり、約六〇〇席の会場を満席にするほどの反響を得たりするうちに、メンバー達が経験や自信を深めていったといえます。この映画を通じて「すべての子どもは生きていくだけで、生まれたただけですばらしい。生まれてくれてありがとう」というメッセージ

年に多くの母親達の声に答える形でドキュメンタリー映画「うまれる」を自主上映したことでした。上映のための協賛金を地域の企業等へ飛び込みで募ったり、約六〇〇席の会場を満席にするほどの反響を得たりするうちに、メンバー達が経験や自信を深めていったといえます。この映画を通じて「すべての子どもは生きていくだけで、生まれたただけですばらしい。生まれてくれてありがとう」というメッセージ

（おうみネットサポーター 藤村 陽子）
ジを伝え続けたい思いから、上映会を継続して実施する基盤固めのために法人格を取得しました。そうして活動が広がる中で様々なつながりが生まれて、今年初のイオンモール草津での上映会が実現したそうです。プロジェクトでは、メンバー各人が実現したいことを口にするような環境づくりを大切にしています。「子どもにだけ夢を持ちなさい」というのではなく、大人が夢を持って子どももついてくる。皆が夢を語れるまににしたい」と代表の堀江さんは語ってくれました。

Grow 03 市民 ● 社会復帰支援

特定非営利活動法人
リバティー・ウィメンズハウス おりーぶ

代表●山本 良子(やまもと りょうこ)
設立●2012年10月 会員●20名
連絡先●大津市南小松1594-357
TEL：077-535-0313
FAX：077-575-2767
URL：http://stephouseolive.com/index.html

▶老人施設でのオイルハンドマッサージ



彼女達は施設で回復を目指しながらも、時には挫折や困難に襲われたりする事も当然あるわけです。そんな時こそ、施設の仲間や先行く仲間(先輩)に助けられ、また先行く仲間もその経験が回復へ大きく影響したりと、共に助け合い、影響し合い、共同生活の中で失敗の解決能力や、人の健全な距離感なども身に付けていくのだそうです。

彼女達は施設で回復を目指しながらも、時には挫折や困難に襲われたりする事も当然あるわけです。そんな時こそ、施設の仲間や先行く仲間(先輩)に助けられ、また先行く仲間もその経験が回復へ大きく影響したりと、共に助け合い、影響し合い、共同生活の中で失敗の解決能力や、人の健全な距離感なども身に付けていくのだそうです。

新しい世界における平和、太陽の樹、勝利の象徴ともされるオリーブ。これからも依存症に悩んでいる女性が、一人でも多く苦しみから解放され、新しい明るい未来へと羽ばたいていく場として輝きを増していけるよう、応援していきたいです。

認定する判断が難しく、公からの支援を受けるのはとても困難だそうです。しかしおりーぶでは未来に向かっての動きもあり、卒業された方や回復がより進んだ方を、後輩達と伴走出るスタッフへという暖かい循環も生まれようとしています。

（おうみネットサポーター 谷口 喜子）

お知らせ

ソーシャルビジネス応援セミナー in 大津

～しがソーシャルビジネスサポートネットワークの発足～

地域社会の課題解決を目指す「ソーシャルビジネス」に取り組む企業やNPOを支援しようと、日本政策金融公庫大津、彦根両支店と滋賀県中小企業診断士協会、淡海ネットワークセンターが連携して「しがソーシャルビジネスサポートネットワーク」を発足させました。

これは資金面や経営面で不安を抱える団体や事業者への支援体制を強化し、ビジネスとしての成長を後押しするものです。ソーシャルビジネスを展開している、もしくは始めようとする事業者に対して当ネットワークの参加機関を紹介するほか、ソーシャルビジネス向けのセミナーや相談会の開催、行政機関・商工団体など支援機関同士の勉強会、講師派遣などを行います。

第1弾として

介護・福祉、子育て支援および地域活性化等、地域社会の課題解決に取り組むソーシャルビジネス事業者および支援機関に対して、しがソーシャルビジネスサポートネットワークの活用を周知するとともに活動に役立つセミナーを開催します。

- ◇開催日時：11月11日(土)
13：00～16：00 受付12：30～
- ◇場所：日本政策金融公庫大津支店 5階会議室
(〒520-0051大津市梅林1-3-10(滋賀ビル))
- ◇対象者(定員30人)
ソーシャルビジネス事業者の方または事業を検討されている方。支援機関や金融機関の方。その他興味のある方など。
- ◇参加費：無料
- ◇内容：
【第1部】13：00～13：30
しがソーシャルビジネスサポートネットワークの活用
【第2部】13：30～15：00
ガソリンスタンドはまのエコロジーステーション～「三方よし」のソーシャルビジネス展開～
講師：油藤商事株式会社 専務取締役
青山 裕史 氏
個別相談会／15：00～16：00
事前予約制【60分】
①助成金の活用(担当：淡海ネットワークセンター)
②経営診断・改善(担当：滋賀県中小企業診断士協会)
③資金調達(担当：日本政策金融公庫)
各テーマについて個別相談を開催します。
定員：各テーマ2名/お一人30分

報告

賛助会員

下記の皆様から賛助会員にご入会いただきました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略、50音順)

【法人・団体会員】

- 滋賀ダイハツ販売株式会社
- 税理士法人横井会計
- 特定非営利活動法人かじやの里
- 琵琶湖汽船株式会社

【個人会員】

- | | |
|--------|--------|
| 青田 朋恵 | 竹村 健 |
| 池口 博信 | 寺本 勉 |
| 植田 重一郎 | 徳本 次夫 |
| 遠藤 恵子 | 徳本 雅子 |
| 岡治 利和 | 中井 善寿 |
| 隠岐 純一 | 中村 淳子 |
| 勝身 真理子 | 中村 道也 |
| 川辺 恵子 | 広実 照美 |
| 北村 裕明 | 福永 忠克 |
| 木戸 光彰 | 藤井 絢子 |
| 木村 健治 | 村岡 孝浩 |
| 日下部 純子 | 村西 耕爾 |
| 後藤 敬一 | 森 富裕子 |
| 櫻田 満 | 森 良和 |
| 里西 薫 | 森口 行雄 |
| 澤村 雅 | 吉田 嘉久 |
| 菅江 克弘 | 匿名 29名 |
| 高荒 奈花 | |

編集後記

どこか近くにいるような、いわゆる”普通の母親”であるプロジェクトメンバーの方々が、活動を通じて様々な殻を打ち破りながら生き生きと躍進する様子を取材を通じて垣間見ることができ、「大人だって成長できる。夢を叶えることができる!」という勇気と清々しい感動をいただきました。
(おうみネットサポーター 藤村 陽子)

今回おりーぶさん取材させて頂き、学び思ったのは、何かを成そうとする時やどうしても辛い時、伴走し合える仲間が居ること、そしてどんな毎日であっても、安心して帰ることの出来る場所があるということは、依存症の方だけでなく私達皆が必要とする「癒し」であり、「心の拠り所」なのかなと思いました。
(おうみネットサポーター 谷口 喜子)

おうみネット 103

●2017 秋号●



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館日／市民活動ふらっとルーム：火～土曜日
(火～金曜日の祝日は休館)
事務所：火～日曜日

●情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。(50音順)

関西アーバン銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同コープしが、他

公益財団法人 関西アーバン銀行緑と水の基金

滋賀県内において、緑化推進や水環境保全に取り組まれている自治会や住民グループなど地域団体の皆様の活動に対し、助成申請をいただいた事業の書類審査を行い、最大30万円までの助成を行います。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

〒520-0043 滋賀県大津市中央四丁目5番12号 (TEL.077-521-1545) ホームページ <http://gw-kikin.or.jp>



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。